東風　さいたま市立与野東中学校 学校だより
No.2　令和５年５月２日発行

朝　読　書

校長　　舘岡　靖哲

新緑が目に眩しい季節となりました。早いもので、新年度が始まって１か月がたち、新しい環境での生活や学習が本格的に始まりました。放課後には本入部となった１年生を加えて、３学年がそろっての部活動が展開され、輝く笑顔が溢れ、元気な声も響き渡っています。ところで、昨年度末に日課表（生徒の一日のスケジュール）の見直しを図り、本年度当初より新しい日課表での学校生活となりました。昨年度までは、朝の会の後に月・水・金が清掃、火・木が読書となっていました。しかし、清掃と読書どちらも大切にしたいという意見も多く、日課表を 8 時 25 分～読書、8 時 35 分～朝の会、8 時 40 分～清掃、9 時～1 時間目とし、清掃と読書は毎日実施しています。当初は戸惑う生徒も見受けられましたが、この流れが定着してきています。

さて、現在は多くの学校で実施している朝読書ですが、その始まりは 1988 年に始まった千葉県のある私立女子高校での小さな取り組みからでした。その高校では将来に希望を持てない生徒が多く、学習意欲も低迷していたそうです。そんな中で、せめて読書くらいは身につけさせようとして始めた朝読書により、学校が大きく変わったと言います。

「私たちが最初に驚いたのは遅刻者が大幅に減ったことでした。それまで１日に 50 人、100 人の遅刻者がザラだったのが、姿を消したんです。（略）ホームルームの時間に読み聞かせや黙読をしたところ、驚くことに生徒たちの成績がグングン伸びていったんです」

引用　『到知』到知出版会 2018．10　　朝の読書推進協議会理事長 大塚

朝の読書推進協議会が発表している 2020 年 3 月段階での朝読書の実施率は、全国の小学校の 80%、中学校の 82%となっています。また、文部科学省は、2001 年を「教育新生元年」と位置づけ、「21 世紀教育新生プラン」と銘打って、あいさつのできる子、正しい姿勢と合わせて、朝の読書運動を 3 つの柱のひとつとして取り上げています。

朝の読書はとてもシンプルな読書なんです。朝読書には４つの原則があって、

一、毎日やる　　二、皆でやる　　三、好きな本でよい　　四、ただ読むだけ

と、たったこれだけのことです。しかし、その効果は大きく、生徒に集中力がつく、自信と思いやりの気持ちが芽生える、教師や生徒、両親の間の会話が増えるなど劇的ともいえる変化が見られるようになりました。私は週１回のロング・ホームルームでの読書で生徒たちの成績を上げてきましたが、『朝読書』にはそれとはまた違った効果があることを実感したんです。

私は日に数回校内を巡回し、生徒の様子を観察しています。朝読書に集中している生徒の表情を見ることが毎日の楽しみとなりました。

「今日の読書こそ、真の学問である」　　吉田松陰（幕末の長州藩士／1830－1859）

※短い時間であっても毎日読書することで、知識や考え方が蓄積されていくということ